



講学 政策法務

政策法務、地方自治、司法、事件、そして四方山話。硬い話、時たま、柔らかい話。

Ads by Google

Ads by Google

選挙参謀を探しているなら - www.acts-japan.co.jp
選挙で当選するノウハウを限定公開！業界初の選挙参謀ソフトがとくに登場

明治以降の判例全文と要旨 - www.dalichihoki.co.jp
を体系化、判例タイムズの解説情報も登載 無料お試し実施中

企業の健康管理の請負 - www.medical-tt.co.jp
全国で産業医・スタッフをご紹介全国で過重労働者の医師面接を手配

プロフィール

Author:Z-Berg

最近の記事

かながわ政策法務研究会 (07/07)
マンションの政策法務 (5)
(07/01)
石川県、携帯所持規制を条例化
(06/29)
地方公務員の報告発表能力
(06/28)
障害を持つ女子の中学校進学
(06/27)

百条調査委員会

百条委員会を設置／琴平前副町長不正問題

琴平町の前副町長が、在職中に香川県農協から町名義で不正な借り入れを繰り返していた問題で、琴平町議会（服部武議長）は15日、地方自治法に基づく調査特別委員会（百条委員会）を設置した。23日に初会合を開き、調査の進め方や証人の人選などを話し合う。

15日開会した6月定例議会に百条委の設置案が議員提出され、全会一致で可決した。県内での設置は2006年の高松市議会以来で、琴平町議会では初めて。

委員は議員12人のうち、議長と元町職員、町監査委員を除く9人。委員長に山神猛氏、副委員長に小野正人氏を選んだ。

山神委員長は「議会が一丸となり、町民に一日も早く全容や責任問題、再発防止策を報告したい」と決意表明。23日の初会合では、これまでの調査状況について執行部にあらためて説明を求め方針を示した。

また、「誰を証人として呼び、どんな質問をするかは委員と協議して決めたい」とした上で、現職や退職した町職員、県農協関係者らが証人喚問の対象になるとの考えを述べた。

百条委設置を受け、山下町長は「執行部の調査状況を逐次、議会や町民に報告し、議会の協力を得て一日も早い真相究明と問題解決に取り組む」と話した。

町の調査によると、前副町長は総務課長だった1994年から15年間にわたり、町長の公印を無断で使用し、県農協象郷支店（琴平町）から一時借入金名目で借り入れを繰り返していたとみられる。借入残高は8千万円に上っている。

四国新聞16日付記事からです。

私の印象にすぎませんが、地方議会で百条調査委員会が設置される例が増えてきているようです。一昔前は、それほどでもなかったように思います。地方分権が推進される中、議会の存在意義に強い疑問が投げかけられていることから、法的強制力のある百条委員会に積極的にならざるを得ないというのが正直なところなのでしよう。

しかし、強制力があるだけに委員会の運営にはかなり厳しい法的制約があります。証言を請求する場合には民事訴訟に関する法令の規定中証人の訊問に関する規定が準用されます（自治法100条2項）。しかし、地方議会議員が民事訴訟法について知っているわけがなく、百条委員会で適法な訊問がなされているのかは甚だ疑問です。「俺たちは訴訟法なんて知らない。常識でやっているだけだ」と言う議員もいるそうですが、それ自体が非常識で違法であることを理解できていないのです。

本来、こうした議会の活動は議会事務局がサポートすべきなのですが、議会事務局の職員で民事訴訟法に詳しい人は極めて少ないでしょう。むしろ、議会の違法行為を黙認し、表面化させないようにすることが、事務局としての役割だと思っているかもしれません。

「虚偽告発」の恐れ濃厚！？

長野県議会、今後の行方

青山貞一

2006年2月18日

長野県議会に設置されてきた**百条委員会**（以下、単に百条委）だが、田中康夫知事の言葉を借りれば、まさに「**長野県議会は小説のみならず事実よりも奇なり**」だ。

なぜなら、この百条委は、長野県経営戦略局の元参事の発言にもとづき、地元新聞がスクープ報道したことに端を発して設立されたのだが、こともあろうか、長期にわたる百条委で明らかになったのは、その元参事の証言が「偽証」に相当するものであったとされるからだ。

事実、百条委では事実認定をめぐる最終的な採決においてあおぞらの林奉文議員が「元参事の発言こそ『偽証』」と主張した。

だが、百条委では林議員の主張は多数決で否決され、なんと元参事を“無罪放免”と認定したのである。

他方、元下水道課長と田中康夫知事を「公用文書毀棄罪」と認定し、さらに田中知事の証言は「偽証」であると事実認定した。

※この間の「事実と経緯」の詳細については、以下を参照して欲しい。

- [田中康夫：選挙を控えて必死の方々、ご自愛を](#)
- [北山早苗：県議にとって悩ましき？ 2月県会
報酬、条例、百条偽証の採決](#)
- [北山早苗：知事へ文句を言いたい事は一つ。
&、岡部氏と公文書隠蔽の真相](#)

2006年2月26日

百条委員会糾弾キャラバン開始、県議会の実態を知って欲しい

～さわやか早苗日記385～

あおぞらでは、広く県内各地へ出掛けていき、県議会や百条委員会の実態について知っていただくために、『百条委員会・糾弾キャラバン』を始めた。



23日には飯田で（写真）、25日には伊那で県民の皆さんが開いて下さった会に私が出席させていただき、それぞれ40人、30人程を前にお話をさせていただきました。

皆さんからは、「**県議会**がひどいとは思っていたけれど、**そこまでひどいとは思わなかった、驚いた**」との、感想をいただいた。

この様子を、南信州新聞は「百条委員会は、知事の元部下（岡部氏）の証言を根拠に、知事が『働きかけ公文書』の破棄を命じたか否かに焦点を絞って事実認定を進め、『指示はない』とする知事の証言を偽証と認定した。北山県議が一番の問題点に挙げたのが、元部下の証言の信憑性。『元部下が自らの判断で破棄した可能性が強い』との見方を示した」

「働きかけについても、知事後援会元幹部が求めた内容（下水道の維持管理に県内業者を使うように）は、吉村県政時代からの懸案事項で、公文書が出たところで問題はなかった」

「田中知事の偽証を認定した委員会そのものを、『何が事実か究明する事を忘れ、田中知事のイメージダウンを図る事ばかりが目的になっている。利害関係のある非々非々県議の思惑通り、全てが決めつけられている』と不公平さを指摘した」と伝えている。

同時に、飯田では、知事の県政改革の応援団の結成が提案されたり、伊那では、2000年の知事選で田中康夫さんを自宅ロジに招いた女性を、市議に推す提案がなされた。